

FUJITSU Network Si-V735D コマンド操作説明書

第1.0版

- ・本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- ・本書は予告なしに変更されることがあります。

目次

頁

第 1 章 コマンドの概要	2
1.1 コマンドの実行資格	2
1.1.1 ユーザモードの種類	2
1.1.2 ユーザモードの移行	3
1.2 コマンドの分類	3
1.3 コマンドの操作概要	4
1.3.1 コマンドの書式	4
1.3.2 表記法	4
1.3.3 引数定義	4
1.3.4 コマンド入力の基本処理	5
1.3.5 エラーメッセージ表示	5
1.3.6 コマンド使用上の注意事項	5
第 2 章 コマンド・リファレンス	6
2.1 実行資格に関する操作	7
2.1.1 super コマンド	7
2.1.2 c e m a i n t e コマンド	8
2.1.3 p a s s w d コマンド	9
2.1.4 e x i t コマンド	10
2.1.5 m f l a g コマンド	11
2.2 運用操作／動作状態表示などに関する操作	12
2.2.1 ? コマンド	12
2.2.2 i n f o コマンド	13
2.2.3 d a t e コマンド	15
2.2.4 u p t i m e コマンド	16
2.2.5 r e s e t コマンド	17
2.2.6 m o r e コマンド	18
2.2.7 m o d u l e s t a t コマンド	20
2.3 構成情報に関する操作	21
2.3.1 c a r d コマンド	21
2.3.2 g w i n f コマンド	25
2.3.3 v o i f コマンド	28
2.3.4 s i p コマンド	33
2.3.5 p r o x y コマンド	35
2.3.6 s n m p コマンド	39
2.3.7 r d a t e コマンド	43
2.3.8 p b x i n f コマンド	45
2.3.9 c h g r o u p コマンド	47
2.3.10 d r s c コマンド	50
2.3.11 i c g コマンド	52
2.3.12 s e l e c t コマンド	54
2.3.13 c a t a l o g コマンド	57
2.3.14 c h a n g e v e r コマンド	62
2.3.15 s a v e コマンド	63
2.4 ログに関する操作	64
2.4.1 e l o g コマンド	64
2.4.2 s l o g コマンド	66
2.4.3 c o l l e c t コマンド	69
2.4.4 d s p l o g コマンド	71
2.5 ファイルに関する操作	75
2.5.1 d i r コマンド	75
2.5.2 d e l e t e コマンド	76
付録 SiV735(旧機種)からの変更点	77

第 1 章 コマンドの概要

この章では、コマンドを操作する場合に必要な事項に関して、説明します。
具体的には、以下に示す内容を記述します。

コマンドの実行資格
コマンドの分類
コマンドの操作概要
その他の注意事項

1.1 コマンドの実行資格

1.1.1 ユーザモードの種類

Si-V735Dソフトウェアは、コンソールからアクセスするユーザの資格を区別するために、以下の3つのモード（ユーザモード）を提供しています。
コンソールに表示されるプロンプトによって現在のモードを識別することができます。

- ①一般ユーザモード (remote[] cip>>)
- ②スーパ・ユーザモード (remote[] Super:cip>>)
- ③メンテナンス・ユーザモード (remote[] Mainte:cip>>)

ユーザモードにおける各コマンドの実行資格を図1に示します。ユーザモードが①から③に移るほど、使用可能なコマンド（図では面積比で示しています）が追加されます。

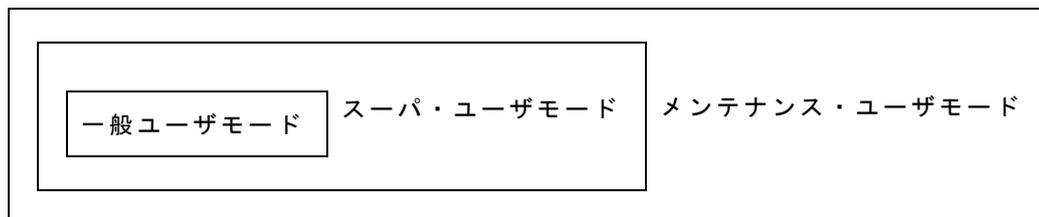


図1 ユーザモード毎の実行資格の関係

1.1.2 ユーザモードの移行

ユーザモード相互の移行は、コンソールからのコマンド投入及びパスワード入力によって行います。ただし、メンテナンス・ユーザモードからスーパー・ユーザモードに移行することはできません。また、メンテナンス・ユーザモードへ移行する際には、メンテナンス作業が『許可』に設定されていることを確認してください。メンテナンス作業の可否は、スーパー・ユーザモードで、mflagコマンド（2.1.5 章）を用いて設定します。

なお、各モードで10分間キー入力が行われないと自動的に切断されます。

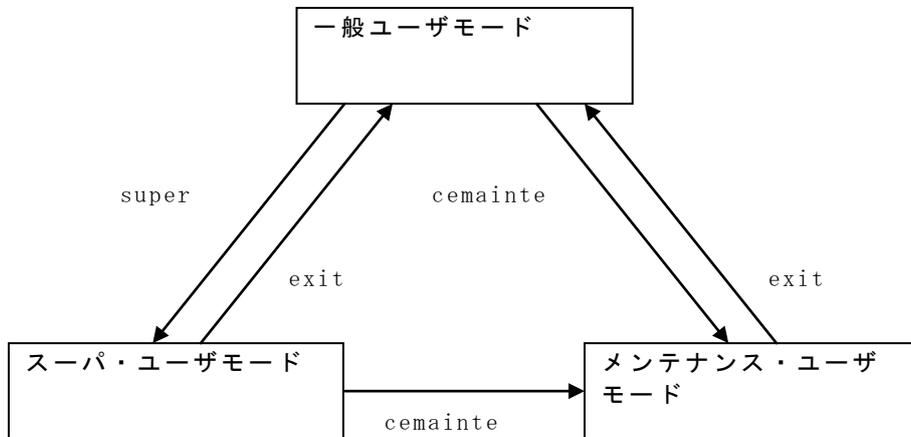


図2 ユーザモードの移行

1.2 コマンドの分類

コマンドの機能は次のように分類されます。

- ① 実行資格に関する操作
- ② 運用操作／動作状態表示などに関する操作
- ③ 構成情報に関する操作
- ④ ログに関する操作
- ⑤ ファイルに関する操作

1.3 コマンドの操作概要

1.3.1 コマンドの書式

コマンドは、大きく分けて「コマンド名」「スイッチ」「インデックス」「設定値」の4つの部分から成ります。各コマンド共通の書式を以下に示します。

コマンド名

```
<-スイッチ1 | -スイッチ2 | -スイッチ3>  
<-インデックス1 | -インデックス2 | -インデックス3>  
[<設定値 a | 設定値 b | 設定値 c >]
```

- (1) コマンド名
コマンドの名称を英小文字で表します。
コマンドによっては、省略形を持つものもあります。
- (2) スイッチ
コマンドの処理を切りわかるパラメータで、先頭が「-」で始まります。
コマンド機能の基本動作、例えば開始／停止／表示等を指定します。
コマンドによっては複数のスイッチを同時に使用する場合があります。
- (3) インデックス
コマンド機能を指示する単位（装置や回線）を、指定するパラメータです。
インデックスパラメータは、引数名に続けて値を指定します。
- (4) 設定値
コマンド機能を指示する単位（装置や回線）に対して、実際に各種詳細データの
設定を行うパラメータで、引数名に続けて値を指定します。設定値パラメータは、
スイッチあるいはインデックスの内容によって、指定可能な値が違う場合があるた
め、本マニュアルの投入条件に留意して下さい。

使用するコマンドにより、引数の指定が有効／無効なものがあります。

コマンド及び引数は、半角の英小文字・数字で入力してください。

コマンド実行中に強制終了を行う場合は、“Control”キーと“C”キーを同時に押して下さい。以下、「“Control+C”のキー操作」と記述します。強制終了を許容するコマンドについては、第2章以降の各コマンドの機能を参照して下さい。

ラインコマンドの場合、一行で入力できる文字数は128文字です。

1.3.2 表記法

- ・ { } 内の引数は、省略不可です。
- ・ [] 内の引数は、省略可能です。
- ・ < > 内の引数には、値を直接入力するか、適した文字を指定してください。
- ・ | で区切られた引数の場合は、その中からいずれかを指定してください。

1.3.3 引数定義

- ・ コマンドと引数との間、及び引数同士の間は、1つ以上のスペースによって区切って入力してください。

1.3.4 コマンド入力の基本処理

- ・実行結果の表示を行わないコマンドの実行に成功した場合、以下のメッセージを表示します。

Complete./Command OK.

- ・間違ったコマンド名が入力された場合、以下のようなメッセージを表示します。

Input error!

入力したコマンドが存在しない場合に表示します。この場合は、コマンド名を確認して、再入力してください。

- ・コマンド名に間違った略名が入力された場合、以下のようなメッセージを表示します。

Ambiguous command. "間違った省略名".

入力したコマンドの省略形が正しくない場合に表示します。この場合は、コマンドの省略形を確認し、再入力してください。

- ・実行するためには引数が必須のコマンドで、実行時に引数が足りない場合、または引数が多すぎる場合は、“usage” を表示します。

- ・“usage” は、?コマンドでも表示することができます。これについてはコマンドヘルプとして、第2章に各コマンドの実行例を記載しています。

- ・“Control+C”のキー操作により、コマンド実行中に強制終了した場合、以下のメッセージを表示します。

Command aborted.

- ・同じインデックスを複数指定した場合、最後に入力したインデックスで指定した設定値が有効になります。

1.3.5 エラーメッセージ表示

コマンド入力時に誤ったパラメータを投入した場合は、コンソール画面にエラーを表示します。詳細につきましては、添付資料『付録 コマンドエラーメッセージ一覧』を参照してください。

ただし一覧には全てのエラーメッセージが記載されているわけではありません。

1.3.6 コマンド使用上の注意事項

① telnetの異常切断について

telnetの異常切断後は、10分間再接続することはできません。

② SiV735(旧機種)からの差分について

SiV735(旧機種)と設定値に差分があります。

詳細については、「付録 SiV735(旧機種)からの変更点」を参照してください。

第 2 章 コマンド・リファレンス

この章では、コマンドの使用方法について説明します。

- ・ 実行資格と併せて、コマンドの実行可能な処理内容を R (Read)、W (Write) に分けて表示します。
 - 実行資格 (R) : コマンド実行により構成情報などの表示が可能なユーザを示します。
 - 実行資格 (W) : コマンド実行により構成情報などの定義／編集が可能なユーザを示します。

2.1 実行資格に関する操作

2.1.1 super コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ ユーザモードをスーパー・ユーザモードに移します（入力したパスワードはエコー表示されません）。パスワードについては、2.1.3 章を参照してください。
- ・ 初期導入時、パスワード設定を要求されます。
設定したパスワードを忘れると、スーパー・ユーザモードへの移行ができません。
又、パスワードは、表示することができませんので、忘れないように注意してください。

(2) 実行資格（○：実行可能、－：対象外）

一般ユーザ	○（W）
スーパー・ユーザ	－
メンテナンス・ユーザ	－

(3) 入力形式

```
super
```

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（一般ユーザモード・スーパー・ユーザモード）

```
remote[] cip>super
Password:XXXXXX
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（一般ユーザモード・スーパー・ユーザモード：パスワード入力ミス）

```
remote[] cip> super
Password:XXXXXX
Invalid password.
remote[] cip>
```

③ コマンド実行（スーパー・ユーザモード・スーパー・ユーザモード：実行資格対象外）

```
remote[] Super:cip> super
You are already Super-user.
remote[] Super:cip>
```

④ コマンド実行（一般ユーザモード・スーパー・ユーザモード：パスワード未設定）

```
remote[] cip> super
Password unsetup.
New password:XXXXXX
Retype new password:XXXXXX
New password is accepted.
remote[] Super:cip>
```

2.1.2 c e m a i n t e コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ ユーザモードをメンテナンス・ユーザモードに移します（入力したパスワードはエコー表示されません）。

(2) 実行資格（○：実行可能、－：対象外）

一般ユーザ	○（W）
スーパ・ユーザ	○（W）
メンテナンス・ユーザ	－

(3) 入力形式

```
cemainte
```

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（一般ユーザモード・メンテナンス・ユーザモード）

```
remote[] cip> cemainte
Password:XXXXXXXX
remote[] Mainte:cip>
```

② コマンド実行（一般ユーザモード・メンテナンス・ユーザモード：パスワード入力ミス）

```
remote[] cip> cemainte
Password:XXXXXXXX
Invalid password.
remote[] cip>
```

③ コマンド実行（メンテナンス・ユーザモード・メンテナンス・ユーザモード：実行資格対象外）

```
remote[] Mainte:cip> cemainte
You are already CE-user.
remote[] Mainte:cip>
```

2.1.3 passwdコマンド

(1) コマンドの機能

- ・ スーパ・ユーザパスワードを設定（変更）します。
- ・ パスワード設定可能文字は、4～12文字で、使用可能な文字はA～Z、a～z、0～9及び記号（下表）です。
（入力したパスワードは、新旧共にエコー表示されません）

(2) 実行資格（○：実行可能、－：対象外）

一般ユーザ	－
スーパ・ユーザ	○（W）
メンテナンス・ユーザ	－

(3) 入力形式

passwd

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（パスワードの設定）

```
remote[] Super:cip> passwd
Old password:XXXXXX
New password:XXXXXX
Retype new password:XXXXXX
New password is accepted.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（パスワード入力ミス）

```
remote[] Super:cip> passwd
Old password:XXXXXX
Invalid password.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行（2回目の新パスワード入力ミス）

```
remote[] Super:cip> passwd
Old password:XXXXXX
New password:XXXXXX
Retype new password:XXXXXX
Invalid password.
remote[] Super:cip>
```

入力可能記号一覧表

@	`	!	"	#	\$	%	&	'	()
*	+	,	-	.	/	:	;	<	=	>
?	[¥]	^	_	{		}	~	

空白も使用可能です。

2.1.4 exitコマンド

(1) コマンドの機能

- ・ ユーザモードを一般ユーザモードに変更します。ただし、一般ユーザモードで本コマンドが実行された場合には、保守回線が切断されます。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (W)
スーパー・ユーザ	○ (W)
メンテナンス・ユーザ	○ (W)

(3) 入力形式

exit

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (スーパー・ユーザモードの場合)

```
remote[] Super:cip> exit
remote[] cip>
```

② コマンド実行 (メンテナンス・ユーザモードの場合)

```
remote[] Mainte:cip> exit
remote[] cip>
```

③ コマンド実行 (一般ユーザモードの場合)

```
remote[] cip> exit
```

注) telnetコネクションは切断されます。

2.1.5 m f l a g コマンド

(1) コマンドの機能

- ・メンテナンス作業の許可及び禁止を行います。
- ・引数を省略した場合には現在の状態を表示します。

(2) 実行資格 (O : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	-
スーパ・ユーザ	O (R/W)
メンテナンス・ユーザ	-

(3) 入力形式

```
mflag [ -on | -off ]
```

- ・引数 -on : メンテナンス作業を許可します。
- off : メンテナンス作業を禁止します。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (メンテナンス作業許可状態の表示)

```
remote[] Super:cip> mflag
mflag is on.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行 (メンテナンス作業許可または禁止の設定)

```
remote[] Super:cip> mflag -on
Command OK.
remote[] Super:cip>
```

```
remote[] Super:cip> mflag -off
Command OK.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行 (実行できない引数 miss を指定)

```
remote[] Super:cip> mflag miss
Invalid option. "miss".
remote[] Super:cip>
```

2.2 運用操作／動作状態表示などに関する操作

2.2.1 ?コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ コマンド一覧、または指定されたコマンドの使用方法を表示します。
- ・ `command`を省略した場合、各ユーザモードで使用可能なコマンド一覧を表示します。
- ・ `command`を指定すると、そのコマンドの使用方法を表示します。ただし、本コマンドを入力したユーザモードにおいて、使用できないコマンドを指定した場合エラーとなります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパー・ユーザ	○ (R)
メンテナンス・ユーザ	○ (R)

(3) 入力形式

? [<command>]

- ・ 引数 `command` : 詳細情報を表示させるコマンド名を指定します。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (コマンド一覧の表示)

```
remote[] cip> ?
?(?), card(car), cemainte(ce), chgroup(chg), date(da), drsc(dr), collect(co),
dsplog(ds), elog(el), exit(ex), gwinf(g), icg(ic), info(in), modulestat(mod),
more(mor), pbxinf(pb), proxy(pr), rdate(r), select(se), sip(si),
snmp(sn), super(su), uptime(u), voif(v)
remote[] cip>
```

② コマンド実行 (dateコマンドの使用方法表示)

```
remote[] cip> ? date
usage: date(da) [-m <display-mode>] | [<current-time>]

display-mode 1: [YYYY/MM/DD.HH:MM:SS]
display-mode 2: [MM/DD/YYYY.HH:MM:SS]
display-mode 3: [DD/MM/YYYY.HH:MM:SS]

remote[] cip>
```

③ コマンド実行 (実行できないコマンド"miss"が指定された場合)

```
remote[] cip> ? miss
Command not found. "miss".
remote[] cip>
```

2.2.2 infoコマンド

(1) コマンドの機能

- ・ソフトウェアの名称、バージョン等を表示します。

<制御カード情報>

- ソフト名称----- 基本ソフトウェア及びオプションソフトウェアの名称を表示します。
- ソフトバージョン----- ソフトウェアの版数を表示します。
- 構成管理情報版数----- 構成管理情報の版数を表示します。
- 構成管理更新版数----- データ更新時の構成管理の版数を表示します。
- データ更新版数----- セーブコマンド投入によるデータ更新の版数を表示します。
- MACアドレス----- MACアドレスを表示します。
- データ転送速度----- データ転送速度(100M/10M)を表示します。
- 通信方式----- 通信方式(全二重/半二重)を表示します。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R)
メンテナンス・ユーザ	○ (R)

(3) 入力形式

info

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行

```
remote[] cip> info
<<CONTROL-card>>
Program name       : SIV735D ----- ソフト名称
Soft version      : E03V13L13C01 ----- ソフトバージョン
Config version    : 001 ----- 構成管理情報版数
Config update Ver1 : 001 ----- 構成管理更新版数
Config update Ver2 : 00003 ----- データ更新版数
MAC address       : 00:00:0e:80:01:25 ----- MACアドレス
Speed             : 100Mbit/s ----- データ転送速度
Duplex mode       : half duplex ----- 通信方式
remote[] cip>
```

2.2.3 dateコマンド

(1) コマンドの機能

- ・ 現在時刻の表示と変更を行います（ただし、一般ユーザモードでの変更はできません）。
- ・ 引数を省略した場合は、現在時刻を表示します。
- ・ display-modeを指定した場合には、current-timeのフォーマット（表示方法）を変更します（ただし、一般ユーザモードでの変更はできません）。
- ・ current-timeを指定した場合には、現在時刻をcurrent-timeに変更します。
- ・ cardコマンドによる時刻同期リモートホスト活性時は、current-timeを指定することは、できません。
- ・ display-modeとcurrent-timeは、同時に指定することはできません。

(2) 実行資格（○：実行可能、－：対象外）

一般ユーザ	○（R）
スーパ・ユーザ	○（R/W）
メンテナンス・ユーザ	○（R/W）

(3) 入力形式

```
date [-m <display-mode>] | [<current-time>]
```

・ 引数 -m : 時刻の表示方法を設定します。

display-mode : 下記の3種類のモードから表示方法を選択します。

1 : [year/month/day.hour:minute:second]

2 : [month/day/year.hour:minute:second]

3 : [day/month/year.hour:minute:second]

year : 年（西暦） 4桁

month : 月 2桁

day : 日 2桁

hour : 時（24時間） 2桁

minute : 分 2桁

second : 秒 2桁

（デフォルトは1）

current-time : 日付及び時刻を設定します。

入力フォーマットは、display-modeで指定した形式となります。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（時刻の変更及び表示 : display-mode = 1）

```
remote[] Super:cip> date -m 1
Command OK.
remote[] Super:cip> date 2003/10/01.15:24:00
Command OK.
remote[] Super:cip> date
2000/02/01(Mon)15:24:07 display-mode:1
remote[] Super:cip>
```

2.2.4 uptime コマンド

(1) コマンドの機能

- ・本装置が立ち上がったから現在までの経過時間を表示します。
- ・システムの IPL、電源立上げで経過時間はクリアされます。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R)
メンテナンス・ユーザ	○ (R)

(3) 入力形式

```
uptime
```

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (経過時間の表示)

```
remote[] cip> uptime
System up 41 days 09:02:50
remote[] cip>
```

2.2.5 resetコマンド

(1) コマンドの機能

- ・本装置をリセットし、再開を行います。
通話中／呼出中等の呼は、全て解放されます。

(2) 実行資格 (○：実行可能、－：対象外)

一般ユーザ	－
スーパ・ユーザ	○ (W)
メンテナンス・ユーザ	○ (W)

(3) 入力形式

```
reset
```

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行

```
remote[] Super:~> reset
The SAVE command for config-data has not been executed yet.  *1
Do you want to continue?(y/n):y
(システムの再開を開始します。)
```

*1:構成定義データに対するSAVEコマンドが未実行の場合のワーニングを示します。

2.2.6 moreコマンド

(1) コマンドの機能

- ・一画面を越える画面を表示する場合に、画面スクロールを停止することができます。
- ・引数を省略した場合、現在の設定状態を表示します。
- ・デフォルトは、画面制御スクロールがOFFの状態です。

(2) 実行資格 (O : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	O (R/W)
スーパ・ユーザ	O (R/W)
メンテナンス・ユーザ	O (R/W)

(3) 入力形式

```
more [ -on | -off ]
```

- ・引数 -on : 画面のスクロールを一時停止します。
 -off : 画面のスクロールを停止しません。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (画面スクロールの設定状態表示)

```
remote[] cip> more
more is off.
remote[] cip>
```

② コマンド実行 (画面スクロールの一時停止を設定)

```
remote[] cip> more -on
Command OK.
remote[] cip>
```

③ コマンド実行 (実行できない引数"miss"を指定された場合)

```
remote[] cip> more miss
Invalid option. "miss".
remote[] cip>
```

④ 「画面スクロールの一時停止」設定時の実行例（gwinfコマンド実行時）

```
remote [] Super:cip> gwinf -dsp
  PN      NO      IP Address      pt
  700     1      172.24.87.21     5060
  710     1      172.24.88.33     5060
  711     1      192.168.1.2      5060
  712     1      202.101.10.2     5060
  713     1      202.102.10.5     5060
  720     1      202.111.10.4     5060
  730     2      202.105.10.7     5060
  731     3      202.123.10.2     5060
  732     4      164.70.85.122   5060
  733     1      192.169.1.1     5060
- MORE -
  734     5      202.101.10.2     5060
  740     6      172.24.89.12     5060
  750     7      202.103.10.4     5060
  751     8      202.106.10.4     5060
  752     1      202.107.10.2     5060
remote[] cip>
```

注) 「- MORE -」表示時にいずれかのkey を押すと画面がスクロールし、続きを表示します。この時、「- MORE -」の文字は画面には残りません。

2.2.7 modulestat コマンド

(1) コマンドの機能

- ・コマンド投入時の装置状態及びチャンネル状態を表示します。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R)
メンテナンス・ユーザ	○ (R)

(3) 入力形式

```
modulestat
```

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行

```
remote[] cip> modulestat
SYS-STATUS : active *1
ch1 : free *2  ch2 : use      ch3 : free      ch4 : free      ch5 : lockout
ch6 : free      ch7 : use      ch8 : free      ch9 : free      ch10: free
ch11: free      ch12: use     ch13: free     ch14: free     ch15: free
ch16: free      ch17: use     ch18: free     ch19: free     ch20: free
ch21: free      ch22: use     ch23: free     ch24: free     ch25: free
ch26: free      ch27: use     ch28: free     ch29: free     ch30: lockout
remote[] cip>
```

*1 本装置のシステム状態を表示します。

[装置状態]

init : 初期設定中の状態
active : 正常に運用されている状態
fault(tmp) : 一時障害により呼設定不可能な状態
fault(fix) : 固定障害により呼設定不可能な状態

*2 本装置のチャンネル毎の状態を表示します。

[チャンネル状態]

init : 初期設定中 / 閉塞 (チャンネル絞込) による使用不可状態
free : 空き状態
use : 使用中状態
lockout : ロックアウト中によりチャンネル使用不可状態
fault : 障害によりチャンネル閉塞中の状態

2.3 構成情報に関する操作

2.3.1 cardコマンド

(1) コマンドの機能

- ・本装置のカード属性の登録（変更）を行います。
- ・引数 `-a` に続け、`ip, sm, gw, host, ucsp, coder, timesvr` を指定してください。
- ・引数の `ip, sm, gw, host, ucsp, coder, timesvr` については、引数に続けて設定値を指定してください。
(例: `ip172.27.55.133`)
- ・引数として `-dsp` を指定した場合には、以降のパラメータを全て省略してください。
- ・全ての設定値は、`save` 後の `reset` で有効になります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
card { -a | -dsp } [ <ip> <sm> <gw> <host> <ucsp> <coder> <timesvr> ]
```

- ・引数
- | | |
|----------------------|--|
| <code>-a</code> | : カード属性を登録（変更）します。 |
| <code>-dsp</code> | : カード属性を表示します。 |
| <code>ip</code> | : IPアドレス |
| <code>sm</code> | : サブネットマスク |
| <code>gw</code> | : デフォルトゲートウェイIPアドレス |
| <code>host</code> | : ホスト名 |
| <code>ucsp</code> | : 無通信監視時間
0 ~ 600 (秒) |
| <code>coder</code> | : CODEC種別
1 : G729A
2 : G711
3 : G711またはG729A |
| <code>timesvr</code> | : 時刻同期リモートホスト活性条件
0 : 非活性 (inactive)
1 : 活性 (active) |

- (注1) IPアドレスの設定について
 クラスA、クラスB、クラスCのみ指定可能です。
 但し以下の値は指定できません。
- ・ネットワークアドレスがすべて0の場合
 - ・ネットワークアドレスがすべて1の場合
 - ・ホストアドレスがすべて0の場合
 - ・ホストアドレスがすべて1の場合
- (注2) サブネットマスクを省略した場合は、IPアドレスクラスに
 相当するデフォルトのサブネットマスクが自動で設定されます。
- (注3) ホスト名設定可能文字は、4～8文字で、使用可能な文字はA～Z、
 a～z、0～9および記号（下表）です。なおすべて半角のみです。

入力可能記号一覧表

@	`	!	#	\$	%	&	()	*	+
,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	[
]	^	_	{		}	~				

空白は使用できません。

- (注4) 無通信監視時間に0を設定した場合、無通信監視を行いません。
 0以外を指定した場合、指定時間以上音声パケットを受信しない場合に
 呼を解放します。（但し無音圧縮非活性の場合）
- (注5) 送信間隔を30msに設定している場合、CODEC種別を”G711”、”G711またはG729A”に
 設定する事はできません。

初期値（本コマンドを投入しなかった場合の初期値）

IPアドレス	(ip)	192.168.1.1
サブネットマスク	(sm)	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイIPアドレス	(gw)	0.0.0.0
ホスト名	(host)	SIV735D
無通信監視時間	(ucsp)	30秒
CODEC種別	(coder)	G711またはG729A
時刻同期リモートホスト活性条件	(timesvr)	非活性

パラメータ入力条件

	ip	sm	gw	host	ucsp	coder	timesvr
変更（登録）	○	○	○	○	○	○	○
表示	×	×	×	×	×	×	×

○：投入可

×：投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（カード属性の変更）

```
remote[] Super:cip>card -a ip192.168.1.100 sm255.255.255.0 hostSIV735D
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（カード属性状態の表示）

```
remote[] Super:cip>card -dsp
*** card ***
*** configuration ***
IP address      192.168.1.1
subnetmask      255.255.255.0
gateway         0.0.0.0
host            SIV735D
ucsp(sec)       30
coder           G711/G729A
timesvr         inactive

*** Saved configuration ***
IP address      192.168.1.1
subnetmask      255.255.255.0
gateway         0.0.0.0
host            SIV735D
ucsp(sec)       30
coder           G711/G729A
timesvr         inactive
remote[] Super:cip>
```

2.3.2 gwinfo コマンド

(1) コマンドの機能

- ・相手先ゲートウェイ情報の登録／変更／削除／表示をおこないます。
- ・引数のpn, no, ip, pt については、pn, no, ip, pt に続けて設定値を指定してください。
(例:pn7796, ip192.168.1.1, pt5060)
- ・引数として-dを指定した場合には、pnを必ず指定し、noは省略可で、ip, ptは省略してください。
- ・引数-aで変更した情報は、変更後の発信より有効となります。すでに接続中の通信には影響しません。
- ・プロキシサーバ連携サービスが非活性又は活性(呼毎切替)の場合に本コマンドの設定が有効です。

(2) 実行資格 (○: 実行可能、-: 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパーユーザ	○ (R/W)
メンテナンスユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
gwinfo { -s | -a | -d | -dsp } [<pn> <no> <ip> <pt>]
```

- ・引数
 - s : 相手先ゲートウェイ情報の登録を行います。
 - a : 相手先ゲートウェイ情報の変更を行います。
 - d : 相手先ゲートウェイ情報の削除を行います。
 - dsp : 相手先ゲートウェイ情報の表示を行います。
 - pn : 相手先番号(0~9, *, # より構成される8桁以内の文字列)
 - no : 相手先ゲートウェイ迂回番号(1~8)
 - ip : 相手先のIPアドレス
 - pt : 相手先のSIPポート番号

相手先ゲートウェイ情報最大登録可能数

登録種別	引数	登録可能数
-s	pn	2048
-s	ip(及びpt)	1024

※同一IPアドレス・SIPポート番号に対し複数の相手先を登録できます。

パラメータ入力条件

相手先ゲートウェイ情報（引数-s指定）／相手先ゲートウェイ情報（引数-a指定）時

引数	pn	no	ip	pt
-s	◎	○	◎	○
-a	◎	○	○	○

◎：投入要（省略不可）

○：投入可／変更可

注1：相手先ゲートウェイ情報登録時、ptを省略した場合SIPポート番号は5060となる。

注2：相手先ゲートウェイ情報変更時のip、pt同時省略は不可能である。

注3：相手先ゲートウェイ迂回番号は1～8まで登録できる。

相手先ゲートウェイと接続する場合には、1から順に登録された相手先のIPアドレスに対して接続を行う。

迂回される場合とは、相手先との接続が不可の場合であり、迂回番号順に、登録された次の相手先IPアドレスに対して接続を行う。

注4：登録・変更時に、noを省略した場合、相手先ゲートウェイ迂回番号は1固定となる。

相手先ゲートウェイ情報（引数-d指定）時

引数	pn	no	ip	pt
-d	◎	○	×	×

◎：投入要（省略不可）

○：投入可

×：指定不可

注1：pnのみ指定の場合該当pn配下の情報を全て削除し、pnとnoを指定した場合は該当pn配下の該当noに登録されている情報のみを削除する。

相手先ゲートウェイ情報（引数-dsp指定）時

機能	pn	no	ip	pt
pn指定	◎	×	×	×
ip指定	×	×	◎	×
全指定	×	×	×	×

◎：投入要（省略不可）

×：投入不要

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (-s指定)

```
remote [] Super:cip> gwinf -s pn7700 nol ip202.101.10.1 pt5060
Complete.
remote [] Super:cip>
```

② コマンド実行 (①で登録した相手先ゲートウェイ情報を変更する場合)

```
remote [] Super:cip> gwinf -a pn7700 nol ip202.101.10.2
Complete.
remote [] Super:cip>
```

③ コマンド実行 (①で登録した相手先ゲートウェイ情報を削除する場合)

```
remote [] Super:cip> gwinf -d pn7700 nol
Complete.
remote [] Super:cip>
```

④ コマンド実行 (-dsp指定)

```
remote [] Super:cip> gwinf -dsp
  PN      NO      IP Address      pt
  7700    1      202.101.10.2    5060
          2      202.101.10.3    5060
          4      202.101.10.4    5060
  7710    2      164.70.85.122   5060
          8      164.70.85.128   5060
  7720    4      192.169.1.1     5060
remote [] Super:cip>
```

注意事項

1. 相手先番号を登録/変更する場合、以下の条件がある。
 - ①登録しようとする番号のレベル(桁数)と登録済レベル(桁数)は一致させる必要がある。
例)770が登録済の場合、7701は登録できない。771は登録可能。
また、77は登録できない。
2. 同じIPアドレスに対して登録する場合、ポート番号は一致する必要がある。
3. 回線信号形式(chgroupコマンドのsgパラメータ設定値)がDPの場合 *、# を扱えません。
*、# を含む相手先番号の設定は、回線信号形式がPBの場合のみ有効です。

2.3.3 voif コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ Q O S 制御条件、C O D E C 制御条件を変更／出力します。
- ・ 変更した内容は、次に発生した呼から有効です。
ただしシグナリング優先度、RTP音声パケット優先度、FAX(T.38)パケット優先度については、save後のresetで有効になります。
- ・ 出力コマンドでは、現在動作中の制御条件が出力されます。

(2) 実行資格 (O : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	O (R)
スーパ・ユーザ	O (R / W)
メンテナンス・ユーザ	O (R / W)

(3) 入力形式

```
voif { -a | -dsp } { -q | -c }
      [<dcls><bcls><fcls><max><min><opt><intvl><redun>]
      [<dtmf><ece><sce><pfe><hpfe><vvol><fxe><frate><fvol><ivol>]
```

- ・ 引数
 - a : Q O S / C O D E C 制御条件の変更を行います。
 - dsp : Q O S / C O D E C 制御条件の内容を表示します。
 - q : Q O S 制御条件を変更します。
 - c : C O D E C 制御条件を変更します。
 - dcls : シグナリング優先度 (TOSフィールドのPRECEDENCEの値)
 - bcls : RTP音声パケット優先度 (TOSフィールドのPRECEDENCEの値)
 - fcls : FAX(T.38)パケット優先度 (TOSフィールドのPRECEDENCEの値)
 - max : 最大遅延時間 (ゆらぎ吸収バッファ)
 - min : 最小遅延時間 (ゆらぎ吸収バッファ)
 - opt : 調整係数
 - intvl : 音声パケット送信間隔
 - redun : T.38パケット冗長度
 - dtmf : P B 処理種別
 - ece : エコーキャンセラ活性条件
 - sce : 無音圧縮活性条件
 - pfe : ポストフィルタ活性条件
 - hpfe : ハイパスフィルタ活性条件
 - vvol : 音声ボリューム設定 (LAN → TTC 回線)
 - fxe : FAXリレー活性条件
 - frate : FAX最大スピード設定
 - fvol : FAXボリューム設定 (LAN → TTC 回線)
 - ivol : 入力ボリューム設定 (TTC 回線 → LAN)

Q O S 制御条件変更時の各パラメータの設定可能範囲および初期値

パラメータ名 (英名)	設定範囲	初期値
シグナリング優先度 (dcls)	0~7	4
RTP音声パケット優先度 (bccls)	0~7	5
FAX(T.38)パケット優先度 (fccls)	0~7	4
最大遅延時間 (max)	1~15 (単位:20ms)※2	7
最小遅延時間 (min)	0~14 (単位:20ms)※2	1
調整係数 ※4 (opt)	0~14	7
音声パケット送信間隔 (intvl)	1~5 (単位:20ms) ※1	1
T.38パケット冗長度 ※4 (redun)	0~3 ※3	0

- ※1) CODEC種別にG729Aが設定されている場合、intvlに1.5を設定する事により送信間隔を30msにする事ができます。
CODECがG711 μ -LAWを使用する設定になっている場合、設定範囲は1~2(20ms~40ms)となります。
- ※2) 最大遅延時間は最小遅延時間を超える値でなければなりません。
- ※3) T.38パケット冗長度は、帯域設計に注意して設定しなければなりません。
- ※4) SiV735(旧機種)から設定値に変更があります。変更点の詳細は、1.4をご確認ください。

C O D E C 制御条件変更時の各パラメータの設定可能範囲および初期値

パラメータ名 (英名)	設定範囲	初期値
D T M F 処理種別 (dtmf)	0:音声として透過 ※1	0
エコーキャンセラ活性条件 (ece)	0:非活性、1:活性	1
無音圧縮活性条件 (sce)	0:非活性、1:活性	0
ポストフィルタ活性条件 (pfe) ※3	1:活性 ※2	1
ハイパスフィルタ活性条件 (hpfe) ※3	0:非活性 ※2	0

D T M F 処理種別とハイパスフィルタ活性条件は初期値以外指定不可

- ※1) DTMF処理種別は初期値以外指定出来ません。
- ※2) ポストフィルタ活性条件とハイパスフィルタ活性条件は初期値以外指定出来ません。
- ※3) SiV735(旧機種)から設定値に変更があります。変更点の詳細は、1.4をご確認ください。

C O D E C 制御条件変更時の各パラメータの設定可能範囲および初期値 (続き)

パラメータ名 (英名)	設定範囲	初期値
音声ボリューム設定 (vvol)	0:Mute 16:-16 32:0 48:16 1:-31 17:-15 33:1 49:17 2:-30 18:-14 34:2 50:18 3:-29 19:-13 35:3 51:19 4:-28 20:-12 36:4 52:20 5:-27 21:-11 37:5 53:21 6:-26 22:-10 38:6 54:22 7:-25 23:-9 39:7 55:23 8:-24 24:-8 40:8 56:24 9:-23 25:-7 41:9 57:25 10:-22 26:-6 42:10 58:26 11:-21 27:-5 43:11 59:27 12:-20 28:-4 44:12 60:28 13:-19 29:-3 45:13 61:29 14:-18 30:-2 46:14 62:30 15:-17 31:-1 47:15 63:31 [単位: dB]	32
F A X リレー活性条件 (fxe)	0:非活性、1:活性	1
F A X 最大スピード設定 (frate)	0:2400 1:4800 2:7200 3:9600 4:12000 5:14400 6:(指定不可) 7:(指定不可) [単位: bps]	5
F A X ボリューム設定 (fvol) ※1	0:-21 8:-13 1:-20 9:-12 2:-19 10:-11 3:-18 11:-10 4:-17 12:-9 5:-16 13:-8 6:-15 14:-7 7:-14 15:-6 [単位: dBm]	11
入力ボリューム設定 (ivol)	0:Mute 16:-16 32:0 48:16 1:-31 17:-15 33:1 49:17 2:-30 18:-14 34:2 50:18 3:-29 19:-13 35:3 51:19 4:-28 20:-12 36:4 52:20 5:-27 21:-11 37:5 53:21 6:-26 22:-10 38:6 54:22 7:-25 23:-9 39:7 55:23 8:-24 24:-8 40:8 56:24 9:-23 25:-7 41:9 57:25 10:-22 26:-6 42:10 58:26 11:-21 27:-5 43:11 59:27 12:-20 28:-4 44:12 60:28 13:-19 29:-3 45:13 61:29 14:-18 30:-2 46:14 62:30 15:-17 31:-1 47:15 63:31 [単位: dB]	32

※1) SiV735から設定値に変更があります。変更点の詳細は、1.4をご確認ください。

Q O S 制御条件変更時パラメータ入力条件

	dcls	bcls	fcls	max	min	opt	intvl	redun
変更 (-a)	○	○	○	○	○	○	○	○
表示 (-dsp)	×	×	×	×	×	×	×	×

○ : 投入可 / 変更可

× : 投入不可

C O D E C 制御条件変更時パラメータ入力条件

	dtmf	ece	sce	pfe	hpfe	vvol	fxe	frate	fvol	ivol
変更 (-a)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
表示 (-dsp)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

○ : 投入可 / 変更可

× : 投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (Q O S 制御条件変更)

```
remote[] Super:cip>voif -a -q dcls5 bcls5 fcls5 max7 min1 opt7 intvl2 redun1
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行 (C O D E C 制御条件変更)

```
remote[] Super:cip>voif -a -c vvol32 pfe0 ivol32
Complete.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行（制御条件の表示）

```
remote[] Super:cip>voif -dsp
*** voif ***
QoS
  dcls          4
  bcls          5
  fcfs          4
  max(ms)       140
  min(ms)       20
  opt           7
  intvl(ms)     20
  redun         0

CODEC
  dtmf          0
  ece           active
  sce           inactive
  pfe           active
  hpfe          inactive
  vvol(dB)      0
  fxe           active
  frate(bps)    14400
  fvol(dBm)     -10
  ivol(dB)      0

remote[] Super:cip>
```

2.3.4 sipコマンド

(1) コマンドの機能

- ・ S I P サービス条件を変更／出力します。
- ・ 引数 `-a` に続け、 `pt`, `rtpmax`, `rtpmin`, `sestim`, `sestdef`, `sestmax`, `sestmin` を指定してください。
- ・ 引数の `pt`, `rtpmax`, `rtpmin`, `sestim`, `sestdef`, `sestmax`, `sestmin` については、引数に続けて設定値を指定してください。
(例: `rtpmax16999`)
- ・ 引数として `-dsp` を指定した場合には、以降のパラメータを全て省略してください。
- ・ 全ての設定値は、`save` 後の `reset` で有効になります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
sip { -a | -dsp } [ <pt> <rtpmax> <rtpmin>  
                  <sestim> <sestdef> <sestmax> <sestmin> ]
```

- ・ 引数 `-a` : S I P サービス条件の変更を行います。
- ・ 引数 `-dsp` : S I P サービス条件を表示します。

- `pt` : S I P シグナリングポート番号
- `rtpmax` : R T P / R T C P 用ポート番号上限
- `rtpmin` : R T P / R T C P 用ポート番号下限
- `sestim` : セッションタイム活性条件
0 : 非活性 (inactive)
1 : 活性 (active)
2 : 活性 (active(not release))
- `sestdef` : セッションタイムデフォルト値
- `sestmax` : セッションタイム最大値
- `sestmin` : セッションタイム最小値

(注1) 全ての設定値はデフォルトで運用可能であり、特に変更する必要はありません。
ルータ側でポート番号による優先制御を行う場合には、R T P / R T C P 用ポート番号範囲をルータの設定と合わせて下さい。

各パラメータの設定可能範囲および初期値

パラメータ名 (英名)	設定範囲	初期値
SIPシグナリングポート番号 (pt)	1025～65535	5060
RTP/RTCP用ポート番号上限 (rtpmax)	1026～65535	16483
RTP/RTCP用ポート番号下限 (rtpmin)	1025～65534	16384
セッションタイム活性条件 (sestim)	0:非活性 1:活性 2:活性(呼解放なし)	1
セッションタイムデフォルト値 (sestdef)	20～86400	180
セッションタイム最大値 (sestmax)	20～86400	3600
セッションタイム最小値 (sestmin)	20～86400	180

パラメータ入力条件

	pt	rtpmax	rtpmin	sestim	sestdef	sestmax	sestmin
変更 (-a)	○	○	○	○	○	○	○
表示 (-dsp)	×	×	×	×	×	×	×

○ : 投入可 / 変更可

× : 投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (設定変更)

```
remote[] Super:cip> sip -a rtpmax16699 rtpmin16600
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行 (設定表示)

```
remote[] Super:cip> sip -dsp
*** sip ***
pt          5060
rtpmax     16483
rtpmin     16384
sestim     active
sestdef    1800
sestmax    3600
sestmin    180
remote[] Super:cip>
```

2.3.5 proxyコマンド

(1) コマンドの機能

- ・プロキシサーバ連携サービスの各種条件を変更／出力します。
- ・引数 `-a` に続け、`svact, ip_p, pt_p, ip_s, pt_s, bkno, bkip, bkpt, user, passwd, domain` を指定してください。
- ・引数の `svact, ip_p, pt_p, ip_s, pt_s, bkno, bkip, bkpt, user, passwd, domain` については、引数に続けて設定値を指定してください。
(例: `ip_p172.24.87.20`)
- ・引数として `-dsp` を指定した場合には、以降のパラメータを全て省略してください。
- ・全ての設定値は、`save` 後の `reset` で有効になります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
proxy { -a | -dsp } [ <svact> <ip_p> <pt_p> <ip_s> <pt_s> <bkno> <bkip>  
                  <bkpt> <user> <passwd> <domain> ]
```

- ・引数 `-a` : プロキシサーバ連携サービス条件の変更を行います。
- ・引数 `-dsp` : プロキシサーバ連携サービス条件を表示します。
- `svact` : プロキシサーバ連携サービス活性条件
0 : 非活性 (inactive)
1 : 活性 (active)
2 : 活性 (avtive(select connection))
- `ip_p` : プロキシサーバIPアドレス (プライマリ)
- `pt_p` : プロキシサーバポート番号 (プライマリ)
- `ip_s` : プロキシサーバIPアドレス (セカンダリ)
- `pt_s` : プロキシサーバポート番号 (セカンダリ)
- `bkno` : 予備プロキシサーバ番号 (1~8)
- `bkip` : 予備プロキシサーバIPアドレス
- `bkpt` : 予備プロキシサーバポート番号
- `user` : 認証用ユーザ名
- `passwd` : 認証用パスワード
- `domain` : サービスドメイン

各パラメータの設定可能範囲および初期値

パラメータ名 (英名)	設定範囲	初期値
プロキシサーバ連携サービス活性条件 (svact)	0:非活性 1:活性 2: 活性(呼毎切替)	0
プロキシサーバIPアドレス(プライマリ) (ip_p)		0.0.0.0
プロキシサーバポート番号(プライマリ) (pt_p)	1025~65535	5060
プロキシサーバIPアドレス(セカンダリ) (ip_s)		0.0.0.0
プロキシサーバポート番号(セカンダリ) (pt_s)	1025~65535	5060
予備プロキシサーバ番号 (bkno)	1~8	無し
予備プロキシサーバIPアドレス (bkip)		0.0.0.0
予備プロキシサーバポート番号 (bkpt)	1025~65535	5060
認証用ユーザ名 (user)	32文字以内	無し
認証用パスワード (passwd)	32文字以内	無し
サービスドメイン (domain)	128文字以内	無し

パラメータ入力条件

	svact	ip_p	pt_p	ip_s	pt_s	bkno (*1)	bkip (*1)	bkpt (*1)
変更 (-a)	○	○	○	○	○	○	○	○
表示 (-dsp)	×	×	×	×	×	×	×	×

	user	passwd	domain
変更 (-a)	○	○	○
表示 (-dsp)	×	×	×

○ : 投入可 / 変更可

× : 投入不可

*1 予備プロキシサーバ情報変更時、bknoは省略することは出来ません。
bkip、bkptを同時に省略することは出来ません。また本パラメータは、同時に複数の指定は出来ません。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（設定変更）

```
remote[] Super:cip>proxy -a svact1 ip_p172.24.87.20 domainexample.com
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（設定変更）

```
remote[] Super:cip>proxy -a bkno1 bkip172.24.87.101
Complete.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行（設定表示）

```
remote[] Super:cip>proxy -dsp
*** proxy ***
svact          active
ip_p           172.24.87.20
pt_p           5060
ip_s           172.24.87.21
pt_s           5060
bkip1          0.0.0.0
bkpt1          5060
bkip2          0.0.0.0
bkpt2          5060
bkip3          0.0.0.0
bkpt3          5060
bkip4          0.0.0.0
bkpt4          5060
bkip5          0.0.0.0
bkpt5          5060
bkip6          0.0.0.0
bkpt6          5060
bkip7          0.0.0.0
bkpt7          5060
bkip8          0.0.0.0
bkpt8          5060
user
passwd
domain         example.com
remote[] Super:cip>
```

(5) サービス組み合わせ条件

プロキシサーバ連携サービス、着信グループサービスの組み合わせには以下の制約があります。

表中「×」となっている組み合わせを選択することはできません。
(コマンド投入時にエラーとなります)

プロキシサーバ連携サービス活性条件	着信グループ機能活性条件	
	0:非活性	1:活性
0:非活性	○	○
1:活性	○	×
2:活性(呼毎切替)	○	×

2.3.6 snmpコマンド

(1) コマンドの機能

- ・SNMPエージェント機能の各種条件の登録／変更／表示を行います。
- ・引数のsvact, contact, name, location, public, mgno, community, manager, trapについては、引数に続けて設定値を指定してください。
(例:contactYAMADA)
- ・引数として-dspを指定した場合には、以降のパラメータを全て省略してください。
- ・全ての設定値は、save後のresetで有効になります。

(2) 実行資格 (○：実行可能、－：対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
snmp [ -s | -a | -d | -dsp ] [ <svact> <contact> <name> <location> <public>
                                     <mgno> <community> <manager> <trap> ]
```

- ・引数
 - s : SNMPエージェント機能条件の登録を行います。
 - a : SNMPエージェント機能条件の変更を行います。
 - d : SNMPエージェント機能条件の削除を行います。
 - dsp : SNMPエージェント機能条件を表示します。
- svact : SNMPエージェント機能活性条件
- contact : 機器管理者名
- name : 機器名称
- location : 機器設置場所
- public : パブリック設定
- mgno : SNMPマネージャ番号 (1～4)
- community : mgnoで指定したSNMPマネージャのコミュニティ名
- manager : mgnoで指定したSNMPマネージャのIPアドレス
- trap : mgnoで指定したSNMPマネージャのトラップ送信条件

- (注1) 機器管理者名は本機器の管理者を示すMIB変数sysContactに設定されます
- (注2) 機器名称は管理上の機器名称を示すMIB変数sysNameに設定されます。
- (注3) 機器設置場所は機器設置場所を示すMIB変数sysLocationに設定されます。
- (注4) コミュニティ名にはマネージャと通信するためのコミュニティ名を設定して下さい。
- (注5) 機器管理者名、機器名称、機器設置場所、コミュニティ名に使用可能な文字はA～Z、a～z、0～9および記号(下表)です。
すべて半角のみで、空白も使用可能です。
ただし、空白を使用する場合文字列全体をシングルクォート(')またはダブルクォート(")で囲む必要があります。
例) "contactYAMADA 790-3100"
- (注6) 任意のマネージャとの通信を許可する場合はパブリック設定をONにして下さい。
- (注7) 最大4つのSNMPマネージャ情報が設定可能です。

入力可能記号一覧表

@	`	!	#	\$	%	&	()	*	+
,	-	.	/	:	;	<	=	>	?	[
]	^	_	{		}	~				

各パラメータの設定可能範囲および初期値

パラメータ名(英名)	設定範囲	初期値
SNMPエージェント機能活性条件 (svact)	0:非活性 1:活性	0
機器管理者名 (contact)	英数記号40文字以内	"administrator"
機器名称 (name)	英数記号32文字以内	"SIV735D"
機器設置場所 (location)	英数記号72文字以内	"Planet Earth"
パブリック設定 (public)	0:OFF 1:ON	0
SNMPマネージャ番号 (mgno)	1～4	
コミュニティ名 (community)	英数記号32文字以内	
SNMPマネージャIPアドレス (manager)		0.0.0.0
トラップ送信条件 (trap)	0:送信しない 1:送信する	0

パラメータ入力条件

1) エージェント情報

引数	svact	contact	name	location	public
変更 (-a)	○	○	○	○	○
削除 (-d)	×	×	×	×	×

○：投入可／変更可

×：投入不可

2) マネージャ情報

引数	mgno	community	manager	trap
登録 (-s)	◎	○	◎	○
変更 (-a)	◎	○	○	○
削除 (-d)	◎	×	×	×

◎：投入要（省略不可）

○：投入可／変更可

×：投入不可

注1) マネージャ情報登録時、mgno及びmanagerの省略は不可である。

注2) マネージャ情報変更時、必ずcommunity以下のパラメータのいずれかを指定しなくてはならない。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（設定変更）

```
remote[] Super:cip>snmp -a svact1 contactYAMADA "locationHONSHA 13F"  
Complete.  
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（設定表示）

```
remote[] Super:cip>snmp -dsp  
*** snmp ***  
svact          active  
contact        YAMADA  
name           SIV735D  
location       HONSHA 13F  
public         OFF  
  
<manager1>  
community     SAWANET  
manager       192.168.248.12  
trap          ON  
  
<manager2>  
community     -  
manager       -  
trap          -  
  
<manager3>  
community     -  
manager       -  
trap          -  
  
<manager4>  
community     HORINET  
manager       192.168.248.254  
trap          OFF  
  
remote[] Super:cip>
```

2.3.7 rdate コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ 指定のリモートマシン（タイムサーバ）から現在時刻をSNTPに従って取得します。
（ただし、一般ユーザモードでの変更はできません）。
- ・ 引数-aに続け、ip, day又は、hourを指定して下さい。
（但し、周期時刻はday、hourのいずれかを指定して下さい。）
SNTPを使用して指定のリモートマシンから1900年1月1日0時(GMT)からの相対秒を取得して絶対時間に変換し、この絶対時間と相対時間の差分を差分時間に設定します。
- ・ 本コマンドはタイムサーバIPアドレスと、周期時刻が未設定の場合は、時刻取得しません。また、タイムサーバIPアドレスのみ設定、周期時刻未設定での再開後も、時刻取得しません。
- ・ 本コマンドはcardコマンドの時刻同期リモートホスト活性条件にて活性／非活性を定義します。
- ・ cardコマンドで時刻同期リモートホスト活性条件活性時は、コマンド投入後、リモートホストへ時刻を取得しにいき、その後は周期時間毎に時刻取得します。
- ・ cardコマンドで時刻同期リモートホスト活性条件非活性時は、コマンド投入後、リモートホストへ時刻を取得せず、その後の周期時間毎も時刻取得しません。

(2) 実行資格（○：実行可能、－：対象外）

一般ユーザ	○（R）
スーパー・ユーザ	○（R/W）
メンテナンス・ユーザ	○（R/W）

(3) 入力形式

```
rdate { -a | -dsp } [<ip> {<day | hour>}]
```

- ・ 引数
 - a : 時刻取得に関する情報を登録（変更）します。
 - dsp : 時刻取得に関する情報を表示します。
- ip : タイムサーバIPアドレス。
タイムサーバのIPアドレスを指定する。
このパラメータが無指定の場合は、構成定義に設定されているタイムサーバより、現在時刻を設定します。
- day : 周期時間（日単位周期時間）の日単位を1～7の範囲で指定する。
- hour : 周期時間（時間単位周期時間）の時間単位を1～23の範囲で指定する。

パラメータ入力条件

	ip	day	hour
変更（登録）	○	△	△
表示	×	×	×

- ：投入可
- △：どちらかを投入可
- ×：投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（時刻の登録、変更及び削除）

```
remote[] Super:cip> rdate -a ip192.168.248.2 day7
Complete.
remote[] Super:cip> rdate -dsp
  timeSvr      active
  ip           192.168.248.2
  cycle time   7 days

remote[] Super:cip>
```

2.3.8 pbxinf コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ 受信数字有効桁数 (PBX→Si-V735D)、発番号の登録／削除／表示を行います。
- ・ 引数の an, ed, sn については、an, ed, sn に続けて設定値を指定してください。
(例 : an77002, ed8)
- ・ 引数として -d を指定した場合には、-e の場合は an のみ指定し、
-o の場合はパラメータを省略してください。
- ・ 引数として -dsp を指定した場合には、パラメータを全て省略してください。
- ・ 全ての設定値は、save 後の reset で有効になります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
pbxinf [-s | -d | -dsp] [-e | -o] [<an> <ed> | <sn>]
```

- ・ 引数
 - s : 受信数字有効桁数 (PBX→Si-V735D)、発番号の登録を行います。
 - d : 受信数字有効桁数 (PBX→Si-V735D)、発番号の削除を行います。
 - dsp : 受信数字有効桁数 (PBX→Si-V735D)、発番号の表示を行います。

 - e : 受信数字有効桁数 (PBX→Si-V735D) の登録／削除／表示を行います。
 - o : 発番号 (自GW局番号) の登録／削除／表示を行います。

 - an : PBX 受信数字 (0~9, *, # より構成される8桁以内の文字列)
(最大登録可能数 : 2048)
 - ed : PBX 受信数字有効桁数 (1~32)

 - sn : 発番号 (自GW局番号) (0~9より構成される32桁以内の数字)

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（設定登録）

```
remote[] Super:cip> pbxinf -s -e an77002 ed8
Complete.
remote[] Super:cip> pbxinf -s -o sn1234567
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（設定削除）

```
remote[] Super:cip> pbxinf -d -e an77002
Complete.
remote[] Super:cip> pbxinf -d -o
Complete.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行（設定表示）

```
remote[] Super:cip> pbxinf -dsp
--- PBX->Si-V735D Outgoing Condition(effective digit length) ---
  AN      ED
77002     8
77003     6

  SN = 1234567
remote[] Super:cip>
```

注意事項

1. PBX受信数字を変更する場合、以下の条件がある。

①登録しようとする番号のレベル（桁数）と登録済レベル（桁数）は一致させる必要がある。

例)770が登録済の場合、7701は登録できない。771 は登録可能。

また、77は登録できない。

2. 回線信号形式(chgroupコマンドのsgパラメータ設定値)がDPの場合 *、# を扱えません。

*、# を含むPBX受信数字の設定は、回線信号形式がPBの場合のみ有効です。

2.3.9 chgroupコマンド

(1) コマンドの機能

- ・チャンネル属性の変更／表示を行います。
- ・引数として-aを指定した場合には、省略パラメータについては、何も変更しません。
- ・引数のaw以降のパラメータについては、パラメータ名に続けて設定値を指定してください。
(例：aw5, ar10)
- ・引数として-dspを指定した場合には、aw以降のパラメータを全て省略してください。
- ・全ての設定値は、save後のresetで有効になります。

(2) 実行資格 (○：実行可能、－：対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
chgroup  {-a | -dsp}
          [<aw> <ar> <ab> <mi> <pp> <maa> <mab> <bra> <brb>
          <gr> <re> <fdr> <dr> <dst> <dpt> <dsl> <sg> <cs> <sch> <ech>]
```

- ・ 引数
 - a : チャンネルの属性を変更します。
 - dsp : チャンネルの表示を行います。
 - aw : 接続確認信号受信待ちタイミング (1~15) [x 1040ms]
 - ar : 接続確認信号受信復旧タイミング (1~15) [x 95ms]
 - ab : 接続確認信号受信戻しタイミング (1~15) [x 30ms]
 - mi : ミニマムポーズタイミング (1~15) [x 95ms]
 - pp : プレポーズタイミング (1~25) [x 190ms]
 - maa : 1OP用パルスメークタイミング (1~15) [x 5ms]
 - mab : 2OP用パルスメークタイミング (1~15) [x 5ms]
 - bra : 1OP用パルスブレイクタイミング (1~15) [x 5ms]
 - brb : 2OP用パルスブレイクタイミング (1~15) [x 5ms]
 - gr : ガードタイミング (1~15) [x 190ms]
 - re : 復旧タイミング (1~15) [x 50ms]
 - fdr : 第一数字受信タイミング (1~255) [x 1s]
 - dr : 桁間タイミング (1~255) [x 1s]
 - dst : PBコード送出タイミング (6~10, 20, 30, 40) [x 10ms]
 - dpt : PBミニマムポーズタイミング (4~255) [x 10ms]
 - dsl : PB送出レベル (0~31) [-31dB]
 - sg : 回線信号形式 (1:20DP, 2:10DP, 3:PB)
 - cs : 接続確認信号方式 (0:immediate方式, 1:wink方式)
 - sch : 開始チャンネル (1~30)
 - ech : 終了チャンネル (1~30)

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（設定変更）

```
remote[] Super:cip> chgroup -a aw5 ar10 ab6 mi8 pp5 maa7 mab3 bra13 brb6  
gr4 re4 fdr10 dr4 dst8 dpt6 dsl5 sg3 cs0 schl ech30  
Complete.  
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（設定表示）

```
remote[] Super:cip> chgroup -dsp  
ack. waiting timing = 5 (*1040ms)      ack. recoverd timing = 10 (*95ms)  
ack. push timing = 6 (*30ms)  
minimum pause timing = 8 (*95ms)      pre-pause timing = 5 (*190ms)  
pulse make timing for 10p = 7 (*5ms)  
pulse make timing for 20p = 3 (*5ms)  
pulse break timing for 10p = 13 (*5ms)  
pulse break timing for 20p = 6 (*5ms)  
guard timing = 4 (*190ms)             recoverd timing = 4 (*50ms)  
digit receive timing / first digit receive timing = 4 / 10 (*1s)  
PB code send timing = 8 (*10ms)  
PB minimum pause timing = 6 (*10ms)   PB send level = -4 (dB)  
signalling type = PB  
connection acknowledge signal = immediate  
available channel (start - end) = 1 - 30  
remote[] Super:cip>
```

(5) パラメータ対応設定値/初期値

パラメータ名 (英名)	設定値	初期値
接続確認信号受信待ちタイミグ (aw)	1 ~ 15 [x 1040ms]	5
接続確認信号受信復旧タイミグ (ar)	1 ~ 15 [x 95ms]	10
接続確認信号受信戻しタイミグ (ab)	1 ~ 15 [x 30ms]	6
ミニマムポーズタイミグ (mi)	1 ~ 15 [x 95ms]	8
プレポーズタイミグ (pp)	1 ~ 25 [x 190ms]	5
10P用パルスメイクタイミグ (maa)	1 ~ 15 [x 5ms]	7
20P用パルスメイクタイミグ (mab)	1 ~ 15 [x 5ms]	3
10P用パルスブ레이크タイミグ (bra)	1 ~ 15 [x 5ms]	13
20P用パルスブ레이크タイミグ (brb)	1 ~ 15 [x 5ms]	6
ガードタイミグ (gr)	1 ~ 15 [x 190ms]	4
復旧タイミグ (re)	1 ~ 15 [x 50ms]	4
第一数字受信タイミグ (fdr)	1 ~ 255 [x 1s]	10
桁間タイミグ (dr)	1 ~ 255 [x 1s]	4
PBコード送出タイミグ (dst)	6 ~ 10, 20, 30, 40 [x 10ms]	8
PBミニマムポーズタイミグ (dpt)	4 ~ 255 [x 10ms]	6
PB送出レベル (dsl)	0:-31 16:-15 1:-30 17:-14 2:-29 18:-13 3:-28 19:-12 4:-27 20:-11 5:-26 21:-10 6:-25 22:-9 7:-24 23:-8 8:-23 24:-7 9:-22 25:-6 10:-21 26:-5 11:-20 27:-4 12:-19 28:-3 13:-18 29:-2 14:-17 30:-1 15:-16 31:-0 [dB]	27
回線信号形式 (sg)	1:20DP/2:10DP/3:PB	3
接続確認信号方式 (cs)	0:immediate方式 1:wink方式	0
開始チャンネル (sch)	1 ~ 30	1
終了チャンネル (ech)	1 ~ 30	30

2.3.10 drscコマンド

(1) コマンドの機能

- ・ 数字消去・再生条件の登録／削除／表示を行います。
- ・ 引数の an, skpn, dsについては、an, skpn, dsに続けて設定値を指定してください。
(例：an790 skpn3 ds780)
- ・ 引数として-sを指定した場合には、anの指定を必須とします。
- ・ 引数として-dを指定した場合には、anのみ指定してください。
- ・ 引数として-s, -dを指定した場合には、-pl, -lpのどちらかを必ず指定してください。
- ・ 引数として-dspを指定した場合には、an以降のパラメータを全て省略してください。
- ・ 引数として-dspを指定した場合には、-pl, -lpを省略すると発着両側の表示を行い、-pl, -lpのどちらかを指定すると発側着側各々の表示を行います。

注) 発側とは、PBX->LAN、着側とは、LAN->PBXのことを示します。

(2) 実行資格 (○：実行可能、－：対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

drsc [-s | -d | -dsp] [-pl | -lp] [<an> <skpn> <ds>]

- ・ 引数
 - s : 数字消去・再生条件の登録を行います。
 - d : 数字消去・再生条件の削除を行います。
 - dsp : 数字消去・再生条件の表示を行います
 - pl : 発側 (PBX->LAN) の数字消去・再生条件の登録／削除／表示を行います。
 - lp : 着側 (LAN->PBX) の数字消去・再生条件の登録／削除／表示を行います。
 - an : 分析数字 (0~9, *, # より構成される8桁以内の文字列)
 - skpn : 消去桁数 (0~15)
 - ds : 再生数字 (0~9, *, # より構成される5桁以内の文字列)

パラメータ入力条件

引数	-pl/-lp	an	skpn	ds
登録 (-s)	◎	◎	○	○
削除 (-d)	◎	◎	×	×
表示 (-dsp)	○	×	×	×

◎：投入要 (省略不可)

○：投入可／変更可

×：投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（設定登録）

```
remote[] Super:cip> drsc -s -pl an790 skpn3 ds780
Complete.
remote[] Super:cip> drsc -s -lp an3 skpn0 ds770
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（設定削除）

```
remote[] Super:cip> drsc -d -pl an790
Complete.
remote[] Super:cip> drsc -d -lp an3
Complete.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行（設定表示）

```
remote[] Super:cip> drsc -dsp
PBX->LAN
  AN      SKPN      DS
  3        0        770
  4        0        770
  770     3        780
  790     3         -

LAN->PBX
  Data nothing

remote[] Super:cip>
```

注意事項

1. 受信再生数字を変更する場合、以下の条件があります。
 - ①登録しようとする番号のレベル（桁数）と登録済レベル（桁数）は一致させる必要があります。
例)770が登録済の場合、7701は登録できない。771 は登録可能。
また、77は登録できません。
2. 最大で発側2048件、着側256件登録可能とします。
3. 消去桁数が「0」の場合には、数字消去は無しとして扱います。
4. 送信再生数字については省略可能とし、表示上では“－”と表示します。
5. 送信再生数字について、「0」が指定された場合には、再生数字が「0」とであると認識します。
6. 消去桁数が省略された場合、消去桁数は「0」として扱います。
7. 変更をしたい場合には、一端削除した後新たに登録し直します。
8. 回線信号形式(chgroupコマンドのsgパラメータ設定値)がDPの場合 *、# を扱えません。
DP設定時、着側の再生後の数字に*、# を含むと正常に着信が出来ません。

2.3.11 icg コマンド

(1) コマンドの機能

- ・着信グループ関連の各種条件を変更／出力します。
- ・引数 -a に続け、svact, attr, icgip, icgpt を指定してください。
- ・引数の svact, attr, icgip, icgpt については、引数に続けて設定値を指定してください。
(例: icgip192.168.248.1)
- ・引数として -dsp を指定した場合には、以降のパラメータを全て省略してください。
- ・全ての設定値は、save 後の reset で有効になります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
icg    { -a | -dsp } [ <svact> <attr> <icgip> <icgpt> ]
```

- ・引数 -a : 着信グループ機能条件の変更を行います。
- dsp : 着信グループ機能条件を表示します。

- svact : 着信グループ機能活性条件
 0 : 非活性 (inactive)
 1 : 活性 (active)
- attr : 一般／代表種別
 0 : 一般GW
 1 : 代表GW
- icgip : 代表GWのIPアドレス
- icgpt : 着信グループポート番号

(注1) 他サービスとの組み合わせ条件については2.3.5項参照。

(注2) 着信グループを構成するGWの内、1台の一般／代表種別を「代表」として下さい。

(注3) 一般GWには代表GWのIPアドレスを設定して下さい。

(注4) 着信グループポート番号は特に変更する必要はありません。
変更する場合、グループを構成するGWのポート番号は一致させる必要があります。
なお、他のコマンドで登録済みまたはシステムで予約済みのポート番号を指定した場合、コマンド投入時にエラーとなります。

各パラメータの設定可能範囲および初期値

パラメータ名 (英名)		設定範囲	初期値
着信グループ機能活性条件	(svact)	0:非活性 1:活性	0
一般/代表種別	(attr)	0:一般GW 1:代表GW	0
代表GW IPアドレス	(icgip)		0.0.0.0
着信グループポート番号	(icgpt)	1025~65535	17000

パラメータ入力条件

	svact	attr	icgip	icgpt
変更 (-a)	○	○	○	○
表示 (-dsp)	×	×	×	×

○ : 投入可/変更可

× : 投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (設定変更)

```
remote[] Super:cip>icg -a svact1 attr0 icgip172.24.87.21
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行 (設定表示)

```
remote[] Super:cip>icg -dsp
*** icg ***
svact      active
attr       0
icgip      172.24.87.21
icgpt      17000
remote[] Super:cip>
```

2.3.12 select コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ サービス選択データの各種条件を変更／出力します。
- ・ 引数 `-a` に続け、Index名と設定値を指定してください。
- ・ 設定値は先頭に `0x` をつけた16進数で指定してください。
- ・ Index名と設定値の間には、空白を入れてください。
(例: `fcprog 0x1`)
- ・ 引数として `-dsp` を指定した場合には、以降のパラメータを全て省略してください。
- ・ 設定値は、設定時点で有効になるものと `save` 後の `reset` で有効になるものがあります。ただし、`save` せずに `reset` または再立ち上げを行った場合、すべての設定値は最後に `save` した時の値に戻ります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
select { -a | -dsp } [ <idx> <value> ]
```

- ・ 引数 `-a` : サービス選択データの変更を行います。
- `-dsp` : サービス選択データを表示します。

- `idx` : サービス選択データ Index名
- `value` : サービス選択データ設定値

各サービス選択データの意味および初期値

Index名	サービス選択項目	設定値の意味	初期値	設定有効時期
fcprog	183/180送出条件	0:183(Call Progress) を送出する 1:180(Ringing) を送出する	0	設定時有効
fcrbt	RBT接続条件	0:対局RBTを接続 1:内部RBTを接続	1	設定時有効
hst ※1	保留音選択条件	0:草競馬 1:四季より「春」	1	save後のresetで有効
lanspd ※1	LAN通信速度・モード設定	0: Auto-Negotiation 1: 10M Full Duplex 2: 10M Half Duplex 3: 100M Full Duplex 4: 100M Half Duplex	0	save後のresetで有効
nlpmode ※1	NLPモード選択条件	0: EC NLP Mode OFF 1: EC NLP Mode ON (Low) 2: EC NLP Mode ON (Medium) 3: EC NLP Mode ON (High)	3	設定時有効
rtcpintvl ※1	RTCPパケット送信間隔	0:RTCPを送信しない 1~8:送信間隔(秒)	5	設定時有効
seh	re-INVITEへのSEヘッダ編集条件	0:セッションリフレッシュ時編集 1:常時編集	0	save後のresetで有効
siphold	SIP保留表現形式	0:RFC2543 1:RFC3264	1	save後のresetで有効

※1) SiV735Dからの新規Indexになります。変更点の詳細は、1.4をご確認ください。

パラメータ入力条件

	idx	value
変更(-a)	○	○
表示(-dsp)	×	×

○: 投入可/変更可

×: 投入不可

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（設定変更）

```
remote[] Super:cip>select -a fcprog 0x1  
Complete.  
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（設定表示）

```
remote[] Super:cip>select -dsp  
*** select ***  
  Index      Value  
  fcprog     0x00000001  
  fcrbt      0x00000000  
  
  nlpmode    0x00000003  
  lanspd     0x00000000  
  rtcpintvl  0x00000005  
  siphold    0x00000001  
  seh        0x00000000  
  hst        0x00000001  
remote[] Super:cip>
```

2.3.13 catalog コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ラインコマンドリストを一括実行します。
- ・コマンドリストを f t p によるファイル転送 (binaryモード) で R A M ディスクに登録してから、本コマンドを使用して下さい。リストの作成方法については、補足を参照して下さい。
- ・コマンドリスト内の各コマンド実行結果は、R A M ディスク内のコマンド実行結果ファイルに格納されます。ファイル名は、コマンドリスト名+.err となります (例えば cmd.lst の場合は、cmd.err)。
- ・ファイル名には拡張子 .lst を必ず指定して下さい。

注) コマンドリスト名は 8文字以内の英数字+"_" . 拡張子で指定して下さい。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	-
スーパー・ユーザ	○ (W)
メンテナンス・ユーザ	○ (W)

(3) 入力形式

```
catalog {<filename>} { -stp | -con }
```

- ・引数 filename : コマンドリストファイル名 (filename)
- stp : コマンド実行エラー発生時、何番目のコマンドかを表示し、以降のコマンドの実行を中止する。
- con : コマンド実行エラー発生にかかわらず、リストの最後までコマンドを実行する。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (-stpを指定し、実行エラーがなかった場合)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -stp
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行 (-stpを指定し、リストの5番目実行時、エラーが起こった場合)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -stp
Error occured sequence No.000005 !
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行 (-conを指定し、実行エラーがなかった場合)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -con
Complete.
remote[] Super:cip>
```

④ コマンド実行 (-conを指定し、実行エラーがあった場合)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -con
Complete. (error occurred!)
remote[] Super:cip>
```

⑤ コマンド実行 (catalogファイル無し)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -stp
File not found.
Command abnormal end.
remote[] Super:cip>
```

⑥ コマンド実行 (catalogファイルのオープン・エラー)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -con
File open error!
remote[] Super:cip>
```

⑦ コマンド実行 (不適当なcatalogファイルを指定した場合)

```
remote[] Super:cip> catalog cmd.lst -con
Wrong catalog file!
Command abnormal end.
remote[] Super:cip>
```

○補足 登録用コマンドリストの作成について

- (1) コマンドリストは、DOSテキスト形式で作成してください。
- (2) コマンドの各パラメータ間には、スペースを挿入してください。
- (3) コマンドリストの各行は、改行コードを含めて256文字以内で作成してください。
- (4) ファイルの1行目には "* catalog command list" というコメントを入れてください。
このコメントがない場合、上記の⑦のエラーになります。
- (5) 行末に '/' がある場合は、次行をパラメータの続きとみなします。
次行にはシーケンス番号は不要です。

注) カタログファイルの最後 (後にsaveコマンドが続いていても可) には必ず changever (強制版数書き換えコマンド) を入れて下さい。最後のコマンドが changeverでない場合には画面上にワーニングメッセージが出力されます。

画面上には10コマンド実行毎に "#"が出力されます。

タイトル行1行目には "catlog", "command", "list" の文字列が含まれていなければいけません。またタイトル行の先頭文字は必ず "*" にして下さい。
2行目以降には最終行も含めてコメント行を記入することができます。

コメント行、空行の定義

- ・ CR+LF のみの行
- ・ 空白または TAB, CR+LFのみの行
- ・ * で始まる行

実行コマンド行にはシーケンス番号が必要です。
シーケンス番号は1桁～6桁の数字で付与して下さい。また、付与する位置は先頭から20文字目までに指定してください。
6桁未満の場合は内部で0サプレスを実施します。
カタログ実行結果ファイル内には1コマンド実行終了毎にプロンプトメッセージを出力します。

saveコマンドは、changever コマンドの次行に指定してください。

以下に例を示します。

○登録用ファイルの入力形式

```
* catalog command list *
<シーケンス番号> <command 名> <parameter1> <parameter2> <parameter3> <parameter4>
<parameter5> <parameter6> <parameter7> <parameter8> .....<CR><LF>

* コメント *
<シーケンス番号> <command 名> <parameter1> <parameter2> <parameter3> / <CR><LF>
<parameter4> <parameter5> <parameter6> <parameter7> <parameter8> .....<CR><LF>
```

○登録用ファイルの例

```
*** catalog command list (VOIP) ***

00001 card -a gw192.168.1.20
00002 gwinf -s pn777 ip192.168.1.185 pt5060
00007 gwinf -s pn7700 ip202.101.10.1 pt5060
00008 gwinf -dsp
00011 uptime
00012 voif -a -q intvl3

*** CONFIG FILE SAVE ***
00065 changever v127
00066 save -na
```

○実行結果ファイルの形式例

```
000001 Complete.
remote[] Mainte:cip>
000002 Complete.
remote[] Mainte:cip>
000007 Complete.
remote[] Mainte:cip>
      PN      NO      IP Address      pt
000008  7700      1      202.101.10.2      5060
000008  7710      1      164.70.85.122      5060
000008  7720      1      192.169.1.1        5060
remote[] Mainte:cip>
000011 System up 0 days 00:01:40
remote[] Mainte:cip>
000012 Complete.
remote[] Mainte:cip>
000065 Complete.
remote[] Mainte:cip>
000066 Save complete.
remote[] Mainte:cip>
```

個別コマンドがコンソールに出力するメッセージを、実行結果ファイルに書き込みます。

○カタログ実行対象コマンドは以下のコマンドです。

コマンド名	可／不可	コマンド名	可／不可
?	×	modulestat	○
card	○	more	×
catalog	×	passwd	×
cemainte	×	pbxinf	○
changever	○	proxy	○
chgroup	○	rdate	○
collect	×	reset	×
date	×	save	○
delete	×	select	○
dir	×	sip	○
drsc	○	slog	×
dsplog	×	snmp	○
elog	×	super	×
exit	×	uptime	○
gwinf	○	voif	○
icg	○		
info	○		
mflag	×		

注1. ○は実行可能コマンド。×は実行不可能コマンド。

注2. saveコマンドを投入する時は、“-na” オプションを必ず指定してください。
指定されていない場合は、「“-na” Option is not defined.」メッセージが表示されsaveコマンドは実行されません。

2.3.14 changever コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ 指定された版数を、構成管理更新版数として設定します。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	-
スーパ・ユーザ	○ (W)
メンテナンス・ユーザ	○ (W)

(3) 入力形式

changever {<v>}

- ・ 引数 v : 更新版数 (000 ~ 255)
3桁固定で指定して下さい。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行

```
remote[] Super:~$ changever v002
Complete.
remote[] Super:~$
```

2.3.15 save コマンド

(1) コマンドの機能

- ・装置内の構成定義情報などの設定情報をフラッシュROMにセーブします。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	-
スーパー・ユーザ	○ (W)
メンテナンス・ユーザ	○ (W)

(3) 入力形式

```
save [ -na ]
```

- ・引数 -na : 確認メッセージなし指定
本オプションはカタログ実行コマンド(catalog) で使用します。

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (セーブを実行する場合)

```
remote[] Super:cip> save
Do you want to save config?(y/n):y
Save execute...
Save complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行 (セーブを実行しない場合)

```
remote[] Super:cip> save
Do you want to save config?(y/n):n
Save command release!!
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行 (確認メッセージなし指定の場合)

```
remote[] Super:cip> save -na
Save complete.
remote[] Super:cip>
```

2.4 ログに関する操作

2.4.1 e l o g コマンド

(1) コマンドの機能

- ・エラーロギングメッセージ（システムで発生した障害等を通知するメッセージ）は、最大2,048件蓄積されます。
- ・ロギング情報がファイルサイズを超えた場合は、最も古いメッセージから消去され、最新のメッセージが追加されます。
- ・引数を省略した場合は、現在のロギングデータ個数を表示します。
- ・“-c”を指定する場合は、以降のパラメータを省略してください。この場合全てのエラーロギング情報をクリアします。
- ・“-txt”を指定すると、エラーロギングメッセージをテキスト形式に変換し、別ファイルに格納します。この場合、ファイル名はELOG.TXTとなります。
- ・“-ss”スイッチは、他のスイッチと一緒に使用することはできません。
- ・コマンド表示中に強制終了を行う場合は、“Control+C”のキー操作を行って下さい。

(2) 実行資格（○：実行可能、－：対象外）

一般ユーザ	○（R）
スーパ・ユーザ	○（R/W）
メンテナンス・ユーザ	○（R/W）

(3) 入力形式

```
e log [ -dsp | -c | -txt ]  
      [[-log1|-log2|-log3|-log4|-log5|-log6|-log7] | [-ss <sqno>]]
```

- ・引数
- | | |
|-------|------------------------------|
| -dsp | : エラーロギングメッセージを表示します。 |
| -c | : エラーロギングメッセージをクリアします。 |
| -txt | : エラーロギングメッセージをテキスト形式に変換します。 |
| -log1 | : 装置障害情報のみを対象とします。 |
| -log2 | : 重度一時障害情報のみを対象とします。 |
| -log3 | : 軽度一時障害情報のみを対象とします。 |
| -log4 | : 運用障害情報のみを対象とします。 |
| -log5 | : LAN障害情報のみを対象とします。 |
| -log6 | : 再開情報のみを対象とします。 |
| -log7 | : TTC-2M回線障害情報のみを対象とします。 |
| -ss | : 表示開始のシーケンス番号を指定します。 |
| sqno | : シーケンス番号を指定します。 |

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行（ロギングデータ個数表示）

```
remote[] cip> e log  
Logging data number is 3.  
remote[] cip>
```

② コマンド実行（エラーロギング表示）

```
remote[] cip> elog -dsp
0001: 2000/02/01.14:40:23 *** 0501 LINKFLT ALARM [0000] [8000000000000000]
0002: 2000/02/01.14:15:31 *** 0502 LINKFLTRCV RECVR [0000] [0000000000000000]
remote[] cip>
```

③ コマンド実行（装置障害情報のみ表示）

```
remote[] cip> elog -dsp -log1
0001: 2000/02/01.14:40:23 *** 0103 DSPFLT ALARM [0100] [0000000000000000]
remote[] cip>
```

④ コマンド実行（重度一時障害情報のみ表示）

```
remote[] cip> elog -dsp -log2
0001: 2000/02/01.14:40:23 *** 0201 ICCTMPFLT ALARM [0200] [0000000000000000]
0002: 2000/02/01.14:40:23 *** 0202 CDCTOUT ALARM [0100] [0000000000000000]
remote[] cip>
```

⑤ コマンド実行（開始位置を指定してエラーロギング表示）

```
remote[] cip> elog -dsp -ss 3
0003: 2000/02/01.14:40:23 *** 0103 DSPFLT ALARM [0100] [0000000000000000]
remote[] cip>
```

⑥ コマンド実行（ロギング情報の消去）

```
remote[] Super:cip> elog -c
Command OK.
remote[] Super:cip>
```

⑦ コマンド実行（ロギング情報テキスト変換中）

```
remote[] Super:cip> elog -txt
Save execute...
```

⑧ コマンド実行（ロギング情報テキスト変換終了）

```
remote[] Super:cip> elog -txt
Save complete.
remote[] Super:cip>
```

2.4.2 slog コマンド

(1) コマンドの機能

- ・各種サポートロギングの開始／停止／クリア／ファイル保存を行います。
- ・引数を全て省略した場合、現在のロギング実施状態を表示します。
- ・引数 start/stop/clear/save のいずれかと、引数 id に続けてロギング種別を指定して下さい。

(2) 実行資格 (○：実行可能、－：対象外)

一般ユーザ	－
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
slog [ {-start | -stop|-clear|-save} {<-id>} ]
```

- ・引数 なし : 現在のロギング実施状態を表示します。
- start : ロギングを開始します。
デフォルトはロギング開始状態となっています。
- stop : ロギングを停止します。
(ロギングを停止しないとファイル保存 (-save) は行えません。)
- clear : ロギングをクリアします。
- save : ロギングをRAM ディスク上のファイルに保存します。
保存したファイルをFTPにより保守用PC等に退避してください。
本装置が障害等により再開すると、保守用PC等に退避していないロギング情報は消去されます。
- id : ロギングの種別

id	内容	保存ファイル名	形式
1	統計情報ロギング	STAT.CSV	テキスト(CSV)
2	音声制御ロギング	VCLOG.BIN	バイナリ
3	SIP制御ロギング	SIPLLOG.BIN	バイナリ

(4) コマンド実行例

① コマンド実行（パラメータなし）

```
remote [] Mainte:cip> slog
id    logsw
1     ON
2     OFF
3     OFF
remote [] Mainte:cip>
```

② コマンド実行（正常終了の場合）

```
remote [] Mainte:cip> slog -start -id1
Command OK.
remote [] Mainte:cip>
```

③ コマンド実行（stopを指定したが既に停止している場合）

```
remote [] Mainte:cip> slog -stop -id2
Already stopped!
remote [] Mainte:cip>
```

④ コマンド実行（指定id異常の場合）

```
remote [] Mainte:cip> slog -clear -id7
Invalid id!
remote [] Mainte:cip>
```

⑤ コマンド実行（save実施時ファイルアクセスエラー発生の場合）

```
remote [] Mainte:cip> slog -save -id2
File access error!
remote [] Mainte:cip>
```

(5) 特記事項

- ・RAMディスクに既に同名ファイルが存在する場合、上書きします。
- ・RAMディスクの空きエリアが不足しているとsave実施時にエラー終了します。
deleteコマンドにより不要なファイルを削除後に実施して下さい。

<統計情報ロギングの収集項目について>

コールバイコールで以下の情報を採取します。

sdate	CODEC起動完了日付	
stime	CODEC起動完了時刻	
edate	CODEC解放完了日付	
etime	CODEC解放完了時刻	
own-ip	自局IPアドレス	
own-port	自局UDPポート番号	
own-cln	自局CODEC回線番号	
oth-ip	相手局IPアドレス	
oth-port	相手局UDPポート番号	
snd-pkt	送信パケット数	
rcv-pkt	受信パケット数	
snd-octets	送信パケットオクテット数	
rcv-octets	受信パケットオクテット数	
over-run	ゆらぎ吸収バッファOverrun回数	
under-run	ゆらぎ吸収バッファUnderrun回数	
dsp-cnt	DSP書き込みパケット数	
jb-err-cnt	ゆらぎ吸収バッファでのエラー発生回数	
rtp-lost	ロスパケット数	
jb-acc-delay	蓄積遅延時間	
ckind	呼種識別 (0:音声のみ、1:FAX有り)	
min-delay	最小遅延	v o i f コマンド設定値
max-delay	最大遅延	
optimize	調整係数	
interval	パケット送信間隔	

2.4.3 collectコマンド

(1) コマンドの機能

- ・各種サポートロギングのファイル保存を行います。ファイル名はcollect.tarとなります。
- ・引数を省略した場合は、全てのロギングをファイルに保存します。
- ・引数を指定する場合は、sno,enoを同時に指定して下さい。
- ・RAMディスク上に既に同名ファイルが存在する場合、ファイルは上書きされます。
- ・RAMディスクの空きエリアが不足している場合、save実行時にエラーとなります。
deleteコマンドにより不要なファイルを削除し、再度実行して下さい。

(2) 実行資格 (○：実行可能、－：対象外)

一般ユーザ	－
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

collect [<sno> <eno>]

- ・引数 無し : 全てのロギングをRAMディスク上のファイルに保存します。
- sno : 保存を開始するロギング種別を指定します(1～11)。
- eno : 保存を終了するロギング番号を指定します(1～11)。

*1 保存したログファイルはFTPにより保守用PC等に退避して下さい。
本装置が障害等により再開した場合、保守用PCに退避していないロギング情報は削除されます。

サポートロギング ログ種別

no	ロギング内容	保存ファイル名	ファイル形式
1	統計情報ロギング	STAT.CSV	テキスト(CSV形式)
2	音声制御ロギング	VCLOG.BIN	バイナリ
3	SIP制御ロギング	SIPLOG.BIN	バイナリ
4	SIPIW制御ロギング	SIPIWLOG.BIN	バイナリ
5	CODEC制御ロギング	CODEC.TXT CDCLOG.BIN FAX.TXT DSPEVT.TXT	テキスト
6	TTC2M制御ロギング	TTC2MLOG.TXT	テキスト
7	E0制御ロギング	E0.TXT	テキスト
8	コールロギング	CALLLOG.CSV	テキスト(CSV形式)
9	エラーロギング	ELOG.TXT	テキスト
10	OS情報	OS.TXT	テキスト
11	CONFIG	CONFIG	バイナリ

(4) コマンド実行例

① コマンド実行（全てのロギングを保存する場合）

```
remote [] Super:cip> collect
Please wait to collect log.
You can get log from /ramd/collect.tar
Please delete log after you get it.
Complete.
remote[] Super:cip>
```

② コマンド実行（範囲を指定して保存する場合）

```
remote[] Super:cip> collect sno2 eno10
Please wait to collect log.
You can get log from /ramd/collect.tar
Please delete log after you get it.
Complete.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行（特定のロギングを保存する場合）

```
remote[] Super:cip> collect sno9 eno9
Please wait to collect log.
You can get log from /ramd/collect.tar
Please delete log after you get it.
Complete.
remote[] Super:cip>
```

④ コマンド実行（範囲指定異常）

```
remote[] Super:cip> collect sno2
usage: collect(co) [ <sno> <eno> ]

remote[] Super:cip>
```

2.4.4 dsplog コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ Callログ表示/クリア/ファイル保存を行います。
- ・ ログメッセージは最大5,000件蓄積されます。最大件数を越えた場合は、最も古いメッセージから消去され、最新のメッセージが追加されます。
- ・ 引数を全て省略した場合、現在のログデータ個数を表示します。
- ・ "-c"を指定する場合は、以降のパラメータを省略してください。この場合全てのログ情報をクリアします。
- ・ "-txt" を指定する場合は、以降のパラメータを省略してください。この場合全てのログメッセージをテキスト形式に変換し、別ファイル(CALLOG.CSV)に格納します。
- ・ コマンド表示中に強制終了を行う場合は、"Control+C"のキー操作を行って下さい。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	○ (R)
スーパ・ユーザ	○ (R/W)
メンテナンス・ユーザ	○ (R/W)

(3) 入力形式

```
dsplog [ -c | -dsp | -txt ] [<sno> <eno>]
```

- ・ 引数
- | | |
|------|----------------------------|
| -c | : ログメッセージをクリアします。 |
| -dsp | : ログメッセージを表示します。 |
| -txt | : ログメッセージをテキスト形式に変換します。 |
| sno | : 表示開始のログ番号を指定します(1~5000)。 |
| eno | : 表示終了のログ番号を指定します(1~5000)。 |

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (ログデータ個数表示)

```
remote [] cip> dsplog
Logging data number is 4.
remote [] cip>
```

② コマンド実行 (ログ情報の消去)

```
remote [] Super:cip> dsplog -c
Complete.
remote [] Super:cip>
```

③ コマンド実行 (ログ情報テキスト変換)

```
remote [] Super:cip> dsplog -txt
Complete.
remote [] Super:cip>
```

④ コマンド実行 (ロギング表示)

```
remote [] cip> dsplog -dsp
***** Call Log *****
0001 :   cid(oif)   : 2 (IC)
        ocpn      : 735
        cpn       : 2001
        chg_cpn   : 2001
        origin    : 2005/06/06.13:25:01
        connect   : 2005/06/06.13:25:10
        release   : 2005/06/06.13:25:19
        cause     : 16
        reason    : -
        codec     : G.711
        snd-pkt   : 568
        rcv-pkt   : 569
        rtp-lost  : 0
0002 :   cid(oif)   : 1 (OG)
        ocpn      : 735
        cpn       : 7352001
        chg_cpn   : 7352001
        origin    : 2005/06/06.13:24:47
        connect   : 2005/06/06.13:25:10
        release   : 2005/06/06.13:25:19
        cause     : 16
        reason    : BYE
        codec     : G.729
        snd-pkt   : 618
        rcv-pkt   : 567
        rtp-lost  : 0
0003 :   cid(oif)   : 4 (OG)
        ocpn      : 735
        cpn       : 2001
        chg_cpn   : 2001
        origin    : 2005/06/06.13:25:53
        connect   : -
        release   : 2005/06/06.13:26:06
        cause     : 16
        reason    : 410
        codec     : -
        snd-pkt   : 0
        rcv-pkt   : 0
        rtp-lost  : 0
0004 :   cid(oif)   : 5 (OG)
        ocpn      : 735
        cpn       : 2998
        chg_cpn   : 2998
        origin    : 2005/06/06.13:26:42
        connect   : -
        release   : 2005/06/06.13:26:57
        cause     : 16
        reason    : -
        codec     : -
        snd-pkt   : 0
        rcv-pkt   : 0
        rtp-lost  : 0

remote[] cip>
```

⑤ コマンド実行（開始位置を指定してロギング表示）

```
remote [] cip> dsplog -dsp sno3
***** Call Log *****
0003 :   cid(oif)   : 4 (0G)
        ocpn      : 735
        cpn       : 2001
        chg_cpn   : 2001
        origin    : 2005/06/06.13:25:53
        connect   : -
        release   : 2005/06/06.13:26:06
        cause     : 16
        reason    : 410
        codec     : -
        snd-pkt   : 0
        rcv-pkt   : 0
        rtp-lost  : 0
0004 :   cid(oif)   : 5 (0G)
        ocpn      : 735
        cpn       : 2998
        chg_cpn   : 2998
        origin    : 2005/06/06.13:26:42
        connect   : -
        release   : 2005/06/06.13:26:57
        cause     : 16
        reason    : -
        codec     : -
        snd-pkt   : 0
        rcv-pkt   : 0
        rtp-lost  : 0
remote[] cip>
```

⑥ コマンド実行（終了位置を指定してロギング表示）

```

remote [] cip> dsplog -dsp eno2
***** Call Log *****
0001 :   cid(oif)   : 2 (IC)
         ocpn      : 735
         cpn       : 2001
         chg_cpn   : 2001
         origin    : 2005/06/06.13:25:01
         connect   : 2005/06/06.13:25:10
         release   : 2005/06/06.13:25:19
         cause     : 16
         reason    : -
         codec     : G.711
         snd-pkt   : 568
         rcv-pkt   : 569
         rtp-lost  : 0
0002 :   cid(oif)   : 1 (OG)
         ocpn      : 735
         cpn       : 7352001
         chg_cpn   : 7352001
         origin    : 2005/06/06.13:24:47
         connect   : 2005/06/06.13:25:10
         release   : 2005/06/06.13:25:19
         cause     : 16
         reason    : BYE
         codec     : G.729
         snd-pkt   : 618
         rcv-pkt   : 567
         rtp-lost  : 0

remote[] cip>

```

(5) 特記事項

- ・ RAMディスクに既に同名ファイルが存在する場合、上書きします。
- ・ RAMディスクの空きエリアが不足している場合、エラー終了します。
deleteコマンドにより不要なファイルを削除後に実施して下さい。
- ・ 保存したファイルをFTPにより保守用PC等に退避してください。
本装置が障害等により再開すると、保守用PC等に退避していないロギング情報は消去されます。

<Callロギングの収集項目について>

コールバイコールで以下の情報を採取します。

cid	装置内呼番号
oif	発着種別 (1[OG]:PBX->LAN、2[IC]:LAN->PBX)
ocpn	発番号
cpn	着番号
chg_cpn	数字消去再生後の着番号
origin	起呼-日付&時刻 (org_date:起呼日付、org_time:起呼時刻)
connect	応答-日付&時刻 (con_date:応答日付、con_time:応答時刻)
release	解放-日付&時刻 (rel_date:解放日付、rel_time:解放時刻)
cause	解放理由 (Q.931)
reason	解放理由 (SIP) 400~699:エラーレスポンス受信、3:BYE受信、4:CANCEL受信 1000:セッションタイム満了、1002:INVITEタイムアウト
codec	音声CODEC (1:G.711、2:G.729)
snd-pkt	送信パケット数
rcv-pkt	受信パケット数
rtp-lost	ロストパケット数

2.5 ファイルに関する操作

2.5.1 dir コマンド

(1) コマンドの機能

- ・フラッシュROM内、及びRAMディスク内のファイル一覧を表示します。

(2) 実行資格 (O : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	-
スーパ・ユーザ	O (R)
メンテナンス・ユーザ	O (R)

(3) 入力形式

```
dir {<devno>}
```

- ・引数 devno : デバイス番号 (0 : フラッシュROM / 1 : RAMディスク)

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行

```
remote[] Super:cip> dir 0
filename      date      time      size
SYSTEM       2000/01/01 00:00:00 1527840
CONFIG       2003/10/01 12:00:12 29493
2,636 Kbytes are available.
remote[] Super:cip>
```

2.5.2 delete コマンド

(1) コマンドの機能

- ・ファイルシステム内のファイルを削除します。
- ・ファイル名には*が指定できます。この場合、全ファイルが対象となります。

(2) 実行資格 (○ : 実行可能、- : 対象外)

一般ユーザ	-
スーパー・ユーザ	○ (W) *1
メンテナンス・ユーザ	○ (W)

*1 スーパー・ユーザはRAMディスク内のファイルのみ削除可能です。

(3) 入力形式

```
delete {<devno> : <filename>}
```

- ・引数 devno : デバイス番号 (0:フラッシュROM, 1:RAMディスク)
- filename : 削除ファイル名

(4) コマンドの実行例

① コマンド実行 (フラッシュROMのファイルを削除)

```
remote[] Mainte:cip> delete 0:pvccmd.lst
Delete?(y/n):y
Complete.
remote[] Mainte:cip>
```

② コマンド実行 (RAMディスク指定でファイル無し)

```
remote[] Super:cip> delete 1:pvccmd.bak
File not found.
remote[] Super:cip>
```

③ コマンド実行 (フラッシュROMの全ファイルを削除)

```
remote[] Mainte:cip> delete 0:*
Delete?(y/n):y
Sure?(y/n):y
Complete.
remote[] Mainte:cip>
```

付録 SiV735(旧機種)からの変更点

- (1) LAN通信速度・モード選択
 SiV735(旧機種)ではLAN通信速度・モード選択をnet.cfgファイルで設定していましたがSiV735D(本機種)よりselectコマンドで設定します。詳細は2.3.12を参照ください。
- (2) 設定値差分
 SiV735DとSiV735との設定値差分について以下に示します。

①voifコマンド

パラメータ名 (英名)	SiV735		SiV735D	
	設定範囲	初期値	設定範囲	初期値
調整係数 (opt)	0~12	7	0~14	7
T.38パケット冗長度 (redun)	0~2	0	0~3	0
ポストフィルタ活性条件 (pfe)	0:非活性 1:活性	1	1:活性	1
ハイパスフィルタ活性条件 (hpfe)	1:活性	1	0:非活性	0
FAXボリューム設定 (fvol)	0:-18.5 8:-10.5 1:-17.5 9:-9.5 2:-16.5 10:-8.5 3:-15.5 11:-7.5 4:-14.5 12:-6.5 5:-13.5 13:-5.5 6:-12.5 14:-4.5 7:-11.5 15:-3.5 [単位: dBm]	9	0:-21 8:-13 1:-20 9:-12 2:-19 10:-11 3:-18 11:-10 4:-17 12:-9 5:-16 13:-8 6:-15 14:-7 7:-14 15:-6 [単位: dBm]	11

②selectコマンド

Index名	サービス選択項目	SiV735		SiV735D	
		設定値の意味	初期値	設定値の意味	初期値
cedvalid	CED検出無効時間	0:90ms未満を無効 100:1000ms以下を無効	0	Indexなし	
rtcpsnd	RTCP送信条件	0:RTCPを送信する 1:RTCPを送信しない	0	Indexなし	
hst	保留音選択条件	Indexなし		0:草競馬 1:四季より「春」	1
lanspd	LAN通信速度・モード設定	Indexなし		0: Auto-Negotiation 1: 10M Full Duplex 2: 10M Half Duplex 3: 100M Full Duplex 4: 100M Half Duplex	0
nlpmode	NLPモード選択条件	Indexなし		0: EC NLP Mode OFF 1: EC NLP Mode ON (Low) 2: EC NLP Mode ON (Medium) 3: EC NLP Mode ON (High)	3
rtcpintvl	RTCPパケット送信間隔	Indexなし		0:RTCPを送信しない 1~8:送信間隔(秒)	5